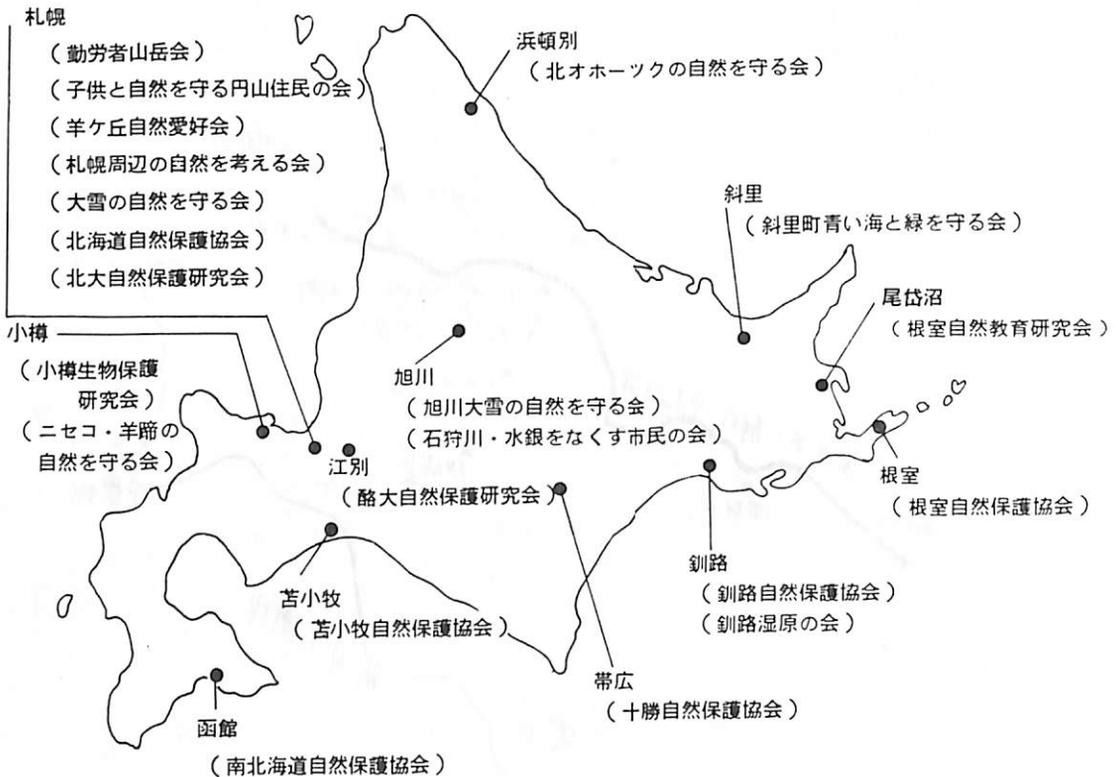


# 北の自然

第9号

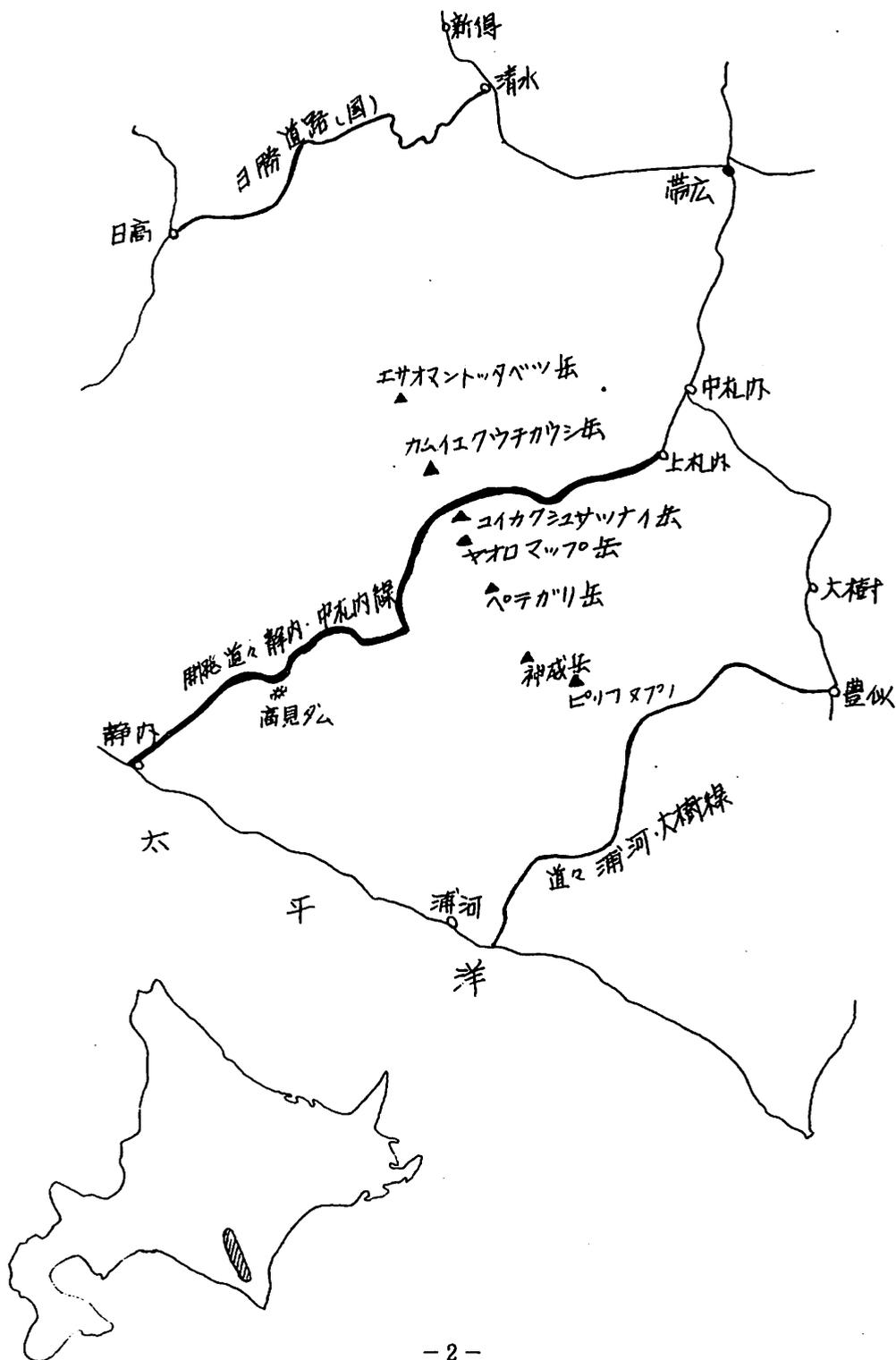
1979年8月10日



## 主な記事

- 見過ごせぬ、日高中央横断道路計画
- 士幌高原はいま  
道々士幌・然別湖線廃止に向けて

開発より保護を



日高山脈中央を横切る

静内・中札内線の

計画概要と問題点

〈十勝自然保護協会〉

日高山脈の自然

日高山脈は、狩勝峠から太平洋に突きでたえりも岬までの間一四〇キロメートル、北海道の南半分を南北にのび、背骨にあたる山々である。最高峰の幌尻岳でも標高二、〇五三メートル、その他の山々の頂は二、〇〇〇メートル以下で、本州中部の山々と比べて決して高いとはいえない。しかしどの山でも地形はけわしく、峰々は空に鋭くつきでている。

日高山脈がよく知られているのはカール地形であろう。山側は急峻な崖となり、その下部は平坦なカール底となっている。かつて山脈をおおっていた氷河が山はだをけずりとった跡である。カール内には高山植物群落がよく発達し、七ツ沼カールのように雪溪のとけ

た水がたまり、池ができていくところもある。

動物物について、日高山脈の奥深さゆえに、これまで断片的な調査結果しかなかった。一九七六年から北海道の自然生態系調査の一環として動物物の調査が行われ、それらの結果が今年になって「日高山系自然生態系総合調査報告(総説・植物篇)、(動物篇)」が発刊された。日高山脈の動物物の概要は、これらの報告によって明らかになったといえるであろう。

日高山脈で記録された植物は六八四種(一雑種を含む)。そのうち高山植物は一三一種である。日高山脈では、大雪山などに比べるとお花畑の大きなものは少なく、しかも主として山頂部とかカール内に見られる、稜線や高い帯の斜面ではハイマツ群落やウラジロナナカマド、タカネナナカマド、ウコ

ンウツギなどの灌木植物群落が見られる。これらの下にはダケカンバ帯かつつき、標高が下がるにつれて針葉樹林、針広混交林と変化してゆく。ただ十勝側では混交林や広葉樹林が多いのに対し、日高側では各所にエゾマツ・トドマツの針葉樹林がみられる。これらの森林の一部は本来の原始林の特徴をよく維持しており、前記報告書でも、日勝峠タケカンバ林、ウエンサル川針葉樹林、春別川針葉樹林、楽古川広葉樹林はとくに保護されるべき森林とされている。

哺乳類は二種が記録されている。すなわち食虫類二種、翼手類三種、ウサギ類二種、げっ歯類七種、食肉類五種、偶蹄類一種である。このうち、ナキウサギは標高四〇〇、二、〇〇〇メートルまでの間でみられるが、一、六〇〇、二、〇〇〇メートルでもっとも多い、このことはナキウサギがカール内や高山帯のガレ場を主な生息場所としているからである。また七〇〇メートル以上にはムクゲネズミが生息し、高山帯ではこのネズミは他のネズミ類より多くなっている。

鳥類はこれまでに七七種が記録されている。高山帯では植生が単純なために主な鳥類はカヤクグリ、ルリビタキ、ノゴマ、ビンズイな

ど鳥類群集は単純であるが、カール内では高山草原もよく発達し、このような環境に特有な鳥類群集がみられる。森林帯では、ほぼ標高一、〇〇〇メートル以上で人工林は少なく、ほとんど伐採を行われておらず、この鳥類群集はヒガラ、サメビタキ、キクイタダキなどの優占する針葉樹林、針広混交林に典型的な鳥類群集がみられるが、それ以下では開けた環境を好む鳥類が優占するようになる。

道路計画の概要

現在、日高山脈を横断する道路は国道三八号(狩勝)、二七四号(日勝)、二三六号(黄金道路)、さらに目下工事中の大樹・浦河線を加えると四路線となる。ここで問題とする計画路線は、日高山脈中央部で十勝、日高両地方を結ぼうというものである。

この路線は、日高支庁管内静内

町の一般道高見静内停車場線から分岐する静内ダムサイトを起点とし、静内川、メナシベツ川、コイボクシビチャリ川沿いに日高山系にはいり、カムイエクウチカウシ山とコイカクシユサツナイ岳の間をトンネルで越え、札内川七の沢に出て、札内川沿いに下り、十

勝支庁管内中札内村上札内为主要  
道道清水大樹線に接続する全長  
七五キロメートルである。

工事区間は二四・五キロメートル、  
道路幅員五・五キロメートル、  
中央トンネルは標高六八〇メートル  
ではじまり、その延長は四、四七〇  
メートルである。トンネルはこの



ほかに三本で、総  
延長六キロメー  
ル、覆道一〇カ所  
橋一七カ所の計画  
がある。

昭和五四年度は  
調査期間とし、  
五五年度から工事  
を開始するとい

七・七 中札内村は、  
一九七七年に札内  
川沿いの林道を村  
道に決定し、さら  
にこれを道道に指  
定しようとしてい  
る。

現在われわれが  
知りうる計画は以  
上である。北海道  
開発局ははっきり  
した路線など詳細  
については公表し  
ていない。

### 日高中央横断道の問題点

前述のように、日高山脈は北海道の中でも自然がよく保たれている。しかし最近になって森林の伐採、砂防ダムや電源開発のためのダムの構築など、いろいろの道路が山脈の奥深くまではいりこみ、さらに産業開発道路の開削が進むにつれて、大規模な工事が高標高地まで及ぼうとしている。日高山脈が以前に比べて身近かになる一方で、日高山脈特有の氷河地形や動植物をふくむ貴重な自然の保護の点での問題が生じている。中札内・静内線は山脈中央部を通るため、日勝道路など既設の道路とは比べようもない自然保護上の大きな問題をかかえているといえるだろう。

十勝自然保護協会は日高専門委員会を設け、日高山脈の国定公園指定や道路計画の問題について検討を行ってきたが、中札内・静内線については以下にあげるような問題点を指摘して基本的に反対の態度を表明した(一月二九日の理事会)。

第一は地質的に極めてせいで弱であるということである。日高山脈北部は、花崗岩や斑岩、内緑岩、

などの等粒状完晶質の深成岩からなるが、計画路線の通る山脈中部ではミグマタイトや片状黒雲母片麻岩が広く分布している。平野部に堆積している扇状地礫層を広く調査した結果によると、洪積世中期の光地園礫層や幕別扇状地礫層、洪積世後期の上札内礫層のいずれにおいても、ミグマタイトの風化は極めて進んでいる。例えば礫はシャベルでサクサクと切断される程であるし、上札内礫層でもハンマーで軽くたたいただけでバラバラにくずれる程である。片状黒雲母片麻岩の風化の程度もこれに近い。

また帯広営林局が一九六五年に発刊した「日高山系崩壊地調査報告書」によると、山復崩壊地面積は札内川流域で最も多く、崩壊率も高い。崩壊地の八〇パーセントは三五度以上の傾斜面に発生しているが、札内川流域では三五度以上の傾斜面が五〇パーセントも占めている。

第二に地形が非常にけわしいことである。前述のように札内川沿いには急傾斜が多い。静内側でも既設林道には危険なところが多い。例えば静内調整池沿いの林道、コイボクシビチャリ川沿いの林道などである。開削予定部分の地形も

急斜面の多いところである。

このような地質・地形の山脈中部での土木工事は、大きな自然破壊を生ずることになるだろう。現在札内川の砂防ダム工事に伴って行われている道路工事が自然破壊の見本である。いまのところ一

号ダム予定地まで道路ができており、さらにその上流に向かって道路開削が進められている。その工法はひどいもので、急斜面をブルドーザで削り、土砂を川の中に落とし、削ったあとの山側の法面は大きな裸地となっている。ここで標高五五〇メートル。予定路線はさらに一三〇メートル上ってからトンネルにはいるわけである。七の沢は札内川本流に比べて川幅はせま

建設による悪影響はないものと考えられる」と述べられているが、この報告書の作成者は自然環境に関する学術調査をほとんど行わず、また十分な検討も行っていないのである。

このほかにも、北海道開発局は一九七四年から計画路線の環境調査を行い、報告書を出している。しかし、われわれ自然保護団体の資料公開要請には応ぜず、報告書は今のところ未公開のままである。

第四は道路開通による経済的メリットに大きな疑問があることである。前記の奥地開道路協会の報告書は、この道路のことも産業上のメリットを強調しているが、同報告書にあげられている資料は、この道路によって両側とを結びつける時間を短縮できないことを示している。例えば中札内・静内線によれば、帯広から帯広間の二時間短縮できると述べているが、同じ報告書

の別の資料では日勝道路経由の方が時間短縮になることを示している。いずれにしても、十勝圏では十勝港の整備拡大という方向がうたがわれているのである。経済面では日勝道路など既存の道路の整備の方が優先されるべきであろう。さらに地形からみると、冬季の雪崩の発生の可能性が大きく閉鎖されることも考えられ、道路の利用効率にも疑問のあるところである。

日高山脈のもっとも大きな特徴は原始的自然をよく維持していることであろう。このことはまた学術的にも大きな価値をもっている。このような自然を一つの標本として保存し、後世に永く伝えていく必要がある。そのために今日の道路のように日高の自然に大きな傷を与えかねないものには断固として反対しなければならない。

第三は、完全な自然生態調査がほとんど行われていないことである。奥地開道路協会が一九七六年に「日高山脈中央部における自然環境並びに日高圏域と十勝圏域の農業等産業の背景に関する調査」を発刊している。この中で

「自然保護の面からみてもこの路線



七の沢上流・四十年分の雪渓

# 日高・士幌関係提出文書

北自連 七九一七  
一九七九・七・一三

北海道自然保護団体連合  
代表 四十万谷 吉郎

北海道知事 殿  
開発道々静内・中札内線

に反対する要望書

日高山脈は、今日日本で最も原始的な伝承の地域です。また、その造山運動や氷河期の遺産としての地形や動植物は山脈そのものが地球の歴史の教科書といわれております。

この極めて良好なそして貴重な自然環境をこのままの姿で後世に残すことは私たち現代に生きるもの義務でもあります。

この日高山脈には、既に国道二七四号線、さらに、道々大樹・浦河線の開削がすすむほか、無数の林道・ダム等の開発がすすんでいながら、これを規制する行政対応は全くすすんでいません。

いま、北海道開発庁が計画する同山脈中央部を貫く二つにわたる開発道々静内・中札内線は、既にすすんでいる自然破壊をさらに拡大するとともに、日高山脈としての価値を著しく損うものと考えます。同時に急峻な地形と積雪の多い地域であることを含め、経済効果は期待できないものと思われれます。以上のことから私たちは開発道々

静内・中札内線計画に反対するとともに、計画の廃止を強く要望いたします。

同様文書について北海道開発局長宛に提出しています。

北自連 七九一七  
一九七九・七・一三

北海道自然保護団体連合  
代表 四十万谷 吉郎

北海道知事 殿

道々士幌・然別湖線の廃止を求める要望書

道々士幌・然別湖線は昭和四一年士幌町により、町道として開削が開始され、昭和四四年六月道々認定がなされ今日に至っています。本道路は大雪山国立公園内に位置し、景観的にも秀れた地域であります。

特に士幌高原といわれる東スブカウシ山、白雲山周辺は低標高でありながら厳しい気象条件からナキウサギ、コマクサ等高山帯特有の自然環境を有しております。私たちは、国立公園内の当地域を保護し、現状の自然環境を維持

すべきであると考えます。以上のことから、既存道々の緑化復元を求めるとともに、「道々士幌・然別湖線」を廃止することを強く要望いたします。

北自連 七九一七  
一九七九・七・一三

北海道自然保護団体連合  
代表 四十万谷 吉郎

北海道電力株式会社

取締役社長 四ツ柳高茂 殿

高見ダム補償林道造成工事に伴う自然破壊についての抗議文

七月一日・二日、当団体連合が実施した日高山脈における現地調査により、貴社が現在進めている高見ダム建設に伴う補償林道工事において、当地の貴重な自然に多大な影響が及んでいることが確認された。

貴社の補償林道工事は高標高かつ急峻脆弱な地形の中で造成工事が進められているが、法面あるいは道路下の広大な地域に土砂投棄による森林の破壊・河川環境の破壊が見られることは自然保護上きわめて遺憾である。

当地域における表土欠落後の緑化復元の難しさは熟知のことと考えるが、法面の緑化・安定及び補償林道造成の際の上砂始末等・周辺環境に悪影響を及ぼしている現状にかんがみ、ここにその旨強く抗議すると共に、早急に改善策を提示されたい。

## ちよつと一言

今年三月の第八回北海道自然保護シンポジウム以来、日高中央横断道路問題が連合の大きな取り組みとなつてきている。この日高道路はその目的・発想が、昭和四十七年から四十九年の大雪山縦貫道路計画と非常に似ている。

そこで私たち住民運動を志す者にとって、過去の「すなわち、大雪山縦貫道路問題」経験を十分に生かし、それを今日の情勢に加味し、運動しなければならぬ。石油不足、省エネルギー時代と言われながらも、車社会は根強く進展している今日。開発とは何か。豊かさとは何か。こうした根本をこの日高中央横断道路問題を通じて再考する必要があるように思う。

前置きはこれのへんにして、次頁に「日高山脈を守る連絡協議会設立趣意書」を掲載した。この協議会は、日高山脈を開発の手から守り、保護を強めるため、同じ志を持つ団体・個人に呼びかけるものである。日高山脈を守るという趣旨に賛同される方の加入を期待する。(事務局)

# 原始の山・日高山脈を守ろう

——日高山脈を守る連絡協議会設立——

趣意書

北海道で大雪山と並び数少ない自然が残されている日高山脈。そこに今、国道二七五号線(通称日勝道路)・道道大樹・浦河線に続き「第三のルート」が計画されています。このルートは「開発道々静内・中札内線」と呼ばれるもので、日高山脈のど真中をぶち抜き、峻険な山脈を削り落して造られるものです。

この日高山脈は学術的にきわめて価値が高く、地形・地質・植物・動物相の原始性が損われておらず、山岳・峡谷の峻険さを加えた総合価値は大雪山に勝るともいわれています。同時に、景観的にも秀れた価値をもつ日高山脈は、昭和四十六年環境庁の自然公園審議会において国定公園候補地の指定を受け、自然公園としての保護が急がれているところです。

このように日高山脈において直接開発に挑む人々以外ほとんど人目に触れることなく、すでに多くの開発が進められています。十勝側における砂防ダム工事、日高側の電源開発工事、及び林道等がその開発の特徴です。

いま私たちが問題としてしている静内・中札内線は三十年頃より地元町村から開発要望の動きが出て、四十年には「日高中央横断道路開発期成会」が発足することによって、本格的な開発への道を歩み始めました。これに対応して開発局も四五年に調査を開始、四九年から「自然環境基礎調査」を始めました。さらに五年度予算では公共投資による不況克服の柱として開発道々々

新規予算が計上され着工に向けての本格的な動きとなつて表面化しています。

こうした中で、この道路による開発が残された貴重な自然や、その中間の営みにとって何を意味し、どのような価値を持ち得るのでしょうか。既に同じような多くの経験を待つ私たちは余りにも安易に、この開発計画の動きを見過してはならないと考えます。

以上の基本的観点から共に日高山脈を守る意志を持つ多くの団体、個人が一同に会し、この運動をより広範に、より強力に展開するという目的で「日高山脈を守る連絡協議会」を設立するはこびになりました。

どうかこの趣旨にご賛同され、日高山脈を守る運動に参加いただきたくと共にご支援をいただきたいと思います。

日高山脈を守る連絡協議会

設立・世話人

北海道自然保護団体連合

十勝自然保護協会

(社団法人)北海道自然保護協会

旭川・大雪の自然を

大雪の自然を守る会(札幌)

道央地区緑と健康を守る連絡会議

連絡先

〒〇〇〇一

札幌市北区北一条西一丁目

北海道自然保護センター内

電話

(〇二)七三二・五七二四 (田中)

## 第9回北海道自然保護シンポジウム開催要項

主催 権: 北海道自然保護団体連合 (2) 代表者会議報告  
主 管 団 体: 十勝自然保護協会 (3) アピール採択  
期 日: 1979年9月1日(土)~2日(日) 16:00 閉会  
場 所: 全通共済会館 17:00 帯広駅前解散(バス到着)  
(帯広市西12条南11丁目) 費用: 参加費 ¥2,500円 {1日目のみ¥1,000円  
TEL 0155-25-2767} {2日目のみ¥1,500円  
(食事付・バス代含)  
主 題: 「日高山系その他道路問題を考える」 宿泊費 ¥2,300円(全通会館)  
日 程: 尚、宿泊参加者は¥4,800円となります。  
9月1日(土) 申し込み: 8月15日まで参加申込書に記入し、予納金  
13:00 開会 として参加費(両日で2,500円)をそえてお願  
18:00 シンポジウム「日高中央横断道路問題」 いします。  
(1) 現地調査報告  
(2) 問題提起  
(3) 質疑応答・意見交換  
(4) 討議・まとめ  
18:30 交流のための懇談(含、夕食)  
20:30 代表者会議(〜19:30)  
9月2日(日)  
8:45 全通会館前集合  
9:00 巡検出発「士幌高原道路」(貸切バス)  
14:00 北大士幌小屋着  
総括会議(於 北大士幌小屋)  
(1) 巡検のまとめ

申込み先  
〒080  
帯広市西5条南7丁目 北電帯広支社  
山根 裕 宛 (TEL 0155-24-5161)

・予納金は現金書留で願います。  
・申込の変更は8月25日まで。以降は予納金を返戻しない。  
その他:(1) 全通会館前付近は駐車が可能。  
(2) 巡検は悪天候でも実施します。  
(3) 会場での資料・本の販売は可。  
(4) 問合せ先 前記 山根 裕又は藤巻裕藏  
(0155-48-5111=藤巻)

# 士幌高原はいま

## 道々士幌・然別湖線廃止に向けて

ハイマツ・コマクサといった特有の高山帯植物を示す士幌高原。決して高い山とは言えぬ東ヌブカウシ山と白雲山の中をぬって「道々士幌・然別湖線」ができてきた。

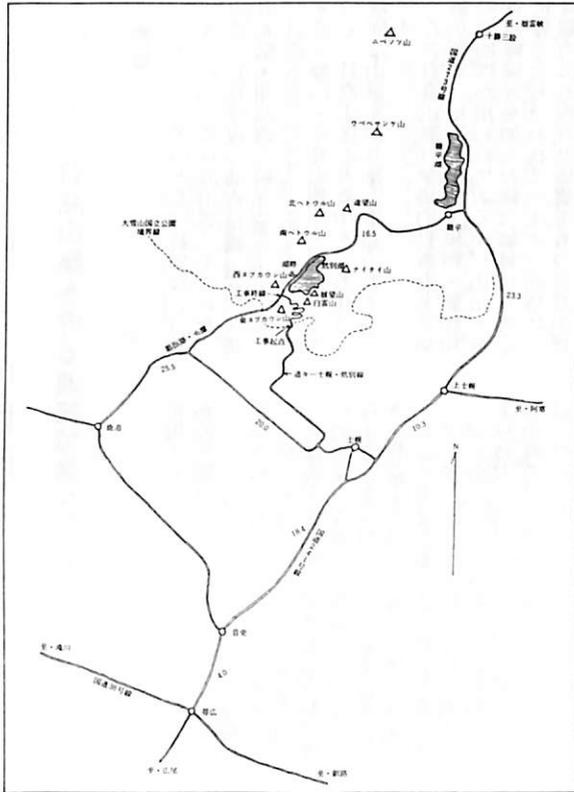
さる七月八日の代表者会議で、連合として反対運動を進めることが決まった。

今日まで、十勝自然保護協会(会長西武)北海道自然保護協会(会長石川俊夫)が反対を表明し、さ

らに近頃大雪の自然を守る会(代表坂本直行)が反対の意志を明らかにしたことを受けての決定である。以下、計画概要等につき述べたいと思う。

### 計画概要

道路位置は、東ヌブカウシ山(二、二五二・二メートル)と白雲山の中間を通るもので、道々士幌・然別湖線の新田牧場近くを起点とし、糠平・清水線との出合を終点



として、昭和四一年に士幌町が事業主体となり「町道士幌・然別湖線」として開削造成に着手している。さ

### 道々士幌然別湖線道路改良工事実施事業費

施行年次	事業主体	事業費	概要	摘要
41	士幌町	千円14,900	開削造成	町道士幌然別湖線道路山火対策、木材般出路、観光道路、過疎対策
42	"	54,300	"	"
43	"	36,000	"	"
44	"	50,900	"	道々士幌然別湖線士幌地区過疎対策、老人と子供の国建設計画、自然休養林計画
45	帯広土現	17,600	"	"
46	"	29,600	"	"
47	"	15,800	法面保護等	自然環境保護対策
48	"	134,600	"	"
49	"	67,000	"	"
50	"	108,000	"	"
51	"	85,000	"	"
52	"	80,000	"	"
53	"	100,000	"	アセスメント条例にもとずき環境調査
54	"	120,000	"	"
55	"	(100,000)	"	"
計		1,013,700		

道路延長八、三五・九五メートル。中員五・五メートル。うち未開削延長分が二、四七二メートル。トンネル部分六五五メートルとなっている。又、大雪山国立公園内の造成部分は四、四七一メートルで、すでに一部造成済である。

### 失われゆく自然

道では、昭和四七年鹿追町並びに自然保護団体が道路造成による自然破壊のひどさを指摘されて以来、今日まで事業費の大半を法面保護にあてている。今年度予算一億二千万円も、法面安定・緑化復元にあてられている。

士幌高原は、大雪山国立公園の未区分特別地域に入っているほか、鳥獣保護区に指定されている景観の秀れた地域である。特に東ヌブカウシ山、西ヌブカウシ山・白雲山は共に低標高でありながらも、高山性の動植物が息し北海道内でも特異な環境を有している。

北海道に遅い春の訪れを感じさせる六月。士幌道路を見る機会があった。士幌町市街から新田牧場をぬけ、問題のジグザグカーブを

進み、既存道路終点から白雲山登山道へ歩く。途中、シカの足跡が数ヶ所見られた。回りはトド松とカバ類をはじめとする広葉樹との混交林である。さらに歩いていくと踏み分け道がそれと分かる状態で横に折れている。私たちもさっそく横道に入ってみた。一瞬、立ち止まり驚いてしまった。そこは一面ハイマツとキバナシヤクナゲの群落であった。こんな低標高で、しかもポッカリ穴があいたような空間の中で大雪山の頂上付近の景色を見れるとは夢にも思わなかったからである。再度私たちが驚かすことがあった。それはあちこちに無数の盗採跡があるこ



とだ。スコップで根こそぎ掘ってある他に、次に盗採する品物に印までつけてある。エスロンテープ麻袋・カマといった七ツ道具も岩穴に隠されていた。ナキウサギの声を聞き感涙しながら、なにか心寂しい思いにかられた。

前記は現在の士幌高原のほんの一部を紹介したにすぎないが、現状ですら、人為的大小の自然破壊がある。ここに道路がきたらどうなるのか。ナキウサギやシカは、そして高山植物の女王・コマクサは、低標高で高山性植物を維持しているのは地形・地質条件に加えて、厳しい気象条件があるからである。これらの条件が士幌高原の特異性を創りあげたといえるのである。この地域に道路造成はもとより、その後、安易に多くの人が入り込むことによる自然環境に対する影響ははかりしれない。自然公園内であることを前提に、道々士幌然別湖線は大きな問題があると言えよう。

さらに、道路造成の目的に、山火対策・木材般山・過疎対策・観光をあげているが、主な目的は観光であろう。それは士幌町と然別湖

を短時間で結ぶ道路ができてからも観光以外の、例えば過疎対策・産業の振興といった効果は少ないと考えられるからである。観光目的とすれば、この種の道路問題では過去に大雪山縦貫道路計画で開発の考え方は崩されているはずである。今また日高や士幌高原で同じ経験をしようというのだろうか。もう一度発想を原点に立ちもどり考え直す必要があると思う。

### 自然環境調査開始

今年度から実質上の自然環境調査が始まっている。この調査は、道環境アセスメント条例による調査に準ずるもので、道土木部が、北海道開発コンサルタント㈱に依頼

(田中 明子)

### 第9回全国自然保護大会開催要領

- 主催 全国自然保護連合  
 主 79北陸大会実行委員会  
 大会スローガン 自然の死は人間の死
- 期 日 1979年8月24日(金)～26日(日)  
 8月24日(金) 連合理事会  
 8月25日(土) 大会  
 8月26日(日) 大会
- 場 所 呉羽ハイッ  
 富山市城山 Tel 0764 (36) - 0191
1. 大会の内容  
 8月24日(金) 連合理事会  
 8月25日(土)  
 9:00 受付開始  
 9:30～11:00 全国自然保護連合総会  
 11:00～12:00 記念講演  
 13:00～17:00 分科会  
 19:00～21:00 自由討論  
 8月26日(日)  
 9:30～12:00 現地報告・分科会報告  
 13:00～15:00 パネルディスカッション  
 15:00～16:30 総会(方針・決議など)
- 分科会  
 (1) 農業空中散布を問いただせ  
 (2) 大林園計画・国有林皆伐をつく  
 (3) 農業の真の再建に向かって  
 (4) カモシカ問題と鳥獣保護  
 (5) エネルギー問題を問いつめる  
 (6) 自然保護教育の展開をめざして  
 (7) 暮らしの中の公害と自然保護  
 (8) 河川・湖沼と海を守るたたかい  
 (9) 自然保護行政への住民参加  
 (10) 反公害運動と自然保護運動の交流  
 (11) 身近な自然の保護と利用  
 (12) 山岳観光問題を総括する
2. 参加料など  
 参加費 2,000円  
 宿泊費 4,500円(1泊2食)
3. 大会事務局  
 〒930 富山市五福5区1720-1 はらだ荘4号 村上佳史  
 \*79北陸大会実行委員会 Tel 0764 (33) - 8596

# 原野の昔ばなし

—その八—  
坂本直行



自然のしごきの中で

冬でも子供はシャツだけ着て、下はペロッと出しています。裸足ですよ。それで雪の中走って歩いて、足冷たくなると寒そうに帰ってくる。それで風邪ひとつひかないです。やっぱり自然の生活で訓練されるんですね。

今の子供、学校生徒なんてそんなことしたらいっぺんに死んじゃいますよ。これは残酷物語だとか何とか、よく新聞に大きく出ますよ。子供を虐待するとかって。

これは、考えると虐待でないですよ。そういう自然のしごきにかかったやつは不死身ですよ。一寸やそつとで死なないですよ。それは強靱な神経とファイトと生活力とを持っています。そういうことで、自然に養われるんですね。だから私はそういう生活を体験する

と今の生活と比較してね。面白いこととか、教えられることがあります。

家ん中がマイナス二〇度

私が最初に入った小屋は、外がマイナス三〇度あると、家ん中がマイナス二〇度。一〇度しか差ないんですね。それでもけっこう赤ん坊は育つもんです。ですから、寒ければ寒いようにあわせた生活をすれば、それに即応した体力つものほでてるんですね。

今あまり大事にするからね。過保護です。それが子供を可愛がる唯一の方法だと思ったら大きな間違いでね。やっぱり車ほしいから車買おうし、これ食いたくないから、もっとうまいもの食いたいかってこう言うでしょう。昔の人は、それ食いたくなかったら食うものないぞ。死んでもいいか。仕

方なし食べるんです。今はせいたくなっちゃってね。これ二〇〇カイリだなんだって、だんだん食うものなくなりますよ。

開拓者の方が合理的

スケソウダラ四〇キロとったら、一〇キロしかつかわないカマボコを食ってるんです。ソビエトはちゃんとみんな知ってるんです。日本じゃこういう無駄をやってるって。どうして自然のまま食わんか。外交で負けます。何ってってかかわないですよ。そういうバカな無駄しているから。白くするため水でさらすでしょう。白くしないとうまくないと思うんだね。その汚水はみんな海に流れ込むんです。これで海を濁し、川をダメにしてるわけです。われわれの生活の中に、そういうもの沢山あるわけです。



それが文化だと思っただら間違いで、文化の名にふさわしくない食いのだと思っっています。もっと自然なものをわれわれ食わなきゃならない。開拓者の方が、そういう点でもっと合理的ですよ。まあ、あるものしか食いませんけど。それ食わなきゃ死ぬですからね。私等はそういう生活三十五年してたんです。

## このままでいいのか風蓮湖

—第四回東北北海道反公害・自然保護交流会から—

本格的な夏をむかえた北海道。それでもオホーツク海の冷たい風が暑さを吹き飛ばしている根室市で七月二二日、東北道反公害自然保護交流会が開かれた。

地元の根室市はもとより、帯広・釧路・帯別・音更・中標津・標津・弟子屈・白糠・旭川・札幌から、およそ七〇名以上が参加した。

九時半から一二時まで、風蓮湖春国岱を巡検し、改めて風蓮湖の自然の豊かさを享受する人々の営みをかきま見ることができた。午後からの交流会では、根室市役所職員から風蓮湖周辺の開発事業計画(別表)の説明をうけ、それについての質疑が若干なされた。その後の特別報告は次のとおりである。

- (1) 日高横断道路計画問題  
報告者 上村一朗氏
- (2) 風蓮湖の自然保護の問題

1. 現況報告

- 高田 勝氏 小林秀雄氏
- 北海道の中の風蓮湖

- 三浦二郎氏 森 紫朗氏

- 外から見た風蓮湖

3. 風蓮湖は、鳥の宝庫として知られているが、鳥類に限らず植生のうえからも興味深いし、浅海漁業

資源の点からもきわめて貴重な自然である。日高山脈のような山岳としての自然の価値もさることながら、風蓮湖のような海つづきの湖もまた貴重な自然といえよう。こうした地域を我々の世代で性急に開発する必要があるのであるか。北に残された固有の自然は、未だ学術的にも未知の部分が多い。この自然はやはり、現状のまま保護すべきと思う。開発することはしごく簡単ではあるが、失われた自然を元にもどすことは不可能といえる。このことは過去の経験・歴史の中で明確にされていることである。にもかかわらず同じ思いを繰り返そうとするのか。日高でそしてこの風蓮湖で。素朴な疑問と怒りで交流会の一日が過ぎた。

今後風蓮湖の自然を守る運動がこれまでの自然保護運動をする人たちのみなならず、子を思う母親も、労働者も皆が力を出し合おう広範な運動へ発展することを期待したい。道産子の親子が戯れる風蓮湖をこのままの状態に残していきたいものである。春国岱の真紅な燃えるようなハマナスの色がいまも目に焼きついてはなれない。

事業者	事業名	所在地	事業年度	事業面積	事業内容	備考
農用地開発団	根室地区農用地開発事業	槍ヶ・明郷湖南・西厚床	S 52年度～S 54 "	18,610,000㎡	農地造成・人植施設 防災林工・道路工	(農林課)
国	道路造成 東梅一別海間直路 新設事業	東梅・別海	未定	L = 20.9km (橋梁含む)	市道を国道として整備するよう現在 要望中 (市単独) S 53 東梅・別海間環境概 S 54 況調査	(土木課)
道	海岸保全事業	"	未定	護岸	海岸侵蝕防止のため、護岸・消波工 上記道路工事と併行して行なう計画	海岸保全区域 指定地 (港湾課)
根室市	飛行場設置事業	根室市川口77番地	S 52年度～ S 59 "	188ha	S 52年度一用地測量 S 53 " 一気象観測 S 54 " 一基本計画策定 S 55 " 一土質調査・基本設計 S 56 " 一設置許可申請 S 57～59年度一整地・滑走路・管理 棟設置	将来は第3 種空港指定 整備の予定 (企画課)
国	根室湾海域総合開 発調査実施	風蓮湖 (根室27号海域)	S 54年度～ S 56 "	水域面積 約5,000ha	・理化学的) 調査 ・生物学的) 調査 ・生産量調査 ・漁場形成調査 ・社会環境の調査 ・問題点の整理	
東海大学	北方食糧資源研究 所(仮称)	風蓮湖 (根室市湖南9番地)	S 55年度 見込	敷地面積 157ha	(魚貝類の増殖) (栽培漁業の研究) 研究所本館附属施設	(水産課)
根室湾中漁業協同組合	沿岸漁業構造改善 対策事業	温根沼・東梅地区	S 50年度～ S 54 "	7,000㎡	あさり貝漁場造成	( " )
根室市	森林施業 (伐採事業)	春国岱	S 52年度～ S 57 "	17ha	現樹木のうち500㎡(択伐)	(農林課)
根室市 根室市観光協	春国岱ハマナス花 園造成事業	"	未定	延長約3km 巾員約50m	私有地の用地買収 ・ハマナス花園開設 ・一部用地買収 ・植生調査 ・駐車場設定 ・休憩所・便所設定	(商工課)

# 活 動 日 誌

- 6月5日 札幌市「緑の審議会」審議委員として、山本正氏を推薦する。(未発令)
- 6月16日 大雪の自然を守る会の「道々士幌・  
17日 然別湖線」視察に参加
- 6月25日 日高横断道路計画現地調査のための  
記者会見(道政記者クラブにて)
- 6月26日 朝里岳スキー場環境委員会
- 7月1日 日高横断道路計画現地調査  
2日
- 7月3日 同、静内隊・中札内隊合同記者会見  
(道政記者クラブにて)
- 7月8日 代表者会議(自然保護センターにて)
- 7月13日 北海道・開発局に文書提出(北自連  
79-7, 8, 9)  
朝里岳スキー場環境委員会

- 7月19日 日高横断道路問題について静内町山  
20日 岳会の方々と話し合う(静内町にて、  
田中)
- 7月22日 北海道反公害・自然保護交流会に  
参加(根室市)
- 7月27日 対道交渉の打合せ(参加者は北海道  
自然保護協会・北海道山岳連盟・大  
雪の自然を守る会)
- 7月28日 第一回対道交渉(11時から赤レンガ  
会議室にて)
- 7月30日 北海道電力株式会社に高見ダム建設  
についての抗議文提出(北自連79-  
11)

この他、毎週火曜日7時より事務局会議を開  
いています。

## 編 集 後 記



ふと見ると、歩道に植えられた  
並木もいつのまにか枝葉をいっぱ  
いに広げ、私たちの暑さをよそに  
涼しそうに風にゆられています。  
いよいよ夏も盛り、夜の涼しさが  
うれしい季節になりました。ある  
人は山に、ある人は海水浴に、ま  
たある人は木陰で読書をしていま  
す。さあ、あなたもクーラーの効  
いた部屋にばかりいないで外の自  
然に目をやって見てはいかがです  
か。

今回、十勝自然保護協会さんの  
協力もいただき、日高道路、士幌  
道路を中心に編集しました。  
どちらの道路にしろ、残り少な  
い北の自然を破壊してまで、なぜ  
道路を造らなければならぬのか、  
それが本当の意味での住民の利益  
になり得るのか、といった点に論  
議が集まりそうです。この特集で  
これらの道路問題についての認識  
を深め、道路建設に対する反対運  
動の意義というものを理解してい  
ただければ幸いです。

さて、編集自体については、依  
然旧体制から抜けきれないようで、  
再び田中さんの援助を仰ぎ、なん  
とか発行予定に間に合わせたとい  
う次第です。少しづつ新編集委員  
が引き継いで行きたいと思えます。  
次号の発行予定は一〇月上旬ご  
ろです。読者の方々のご意見・ご  
感想をお待ちしています。

(編集部)

一九七九年八月十日発行  
編集発行 北海道自然保護団体連合  
事務所 札幌市北区北十一条西一  
丁目 北海道自然保護センター内  
振替口座 小樽 四〇七二  
連絡先 (〇二) 八五二一九二四一  
内線 三六八(代表 四十万谷吉郎)  
(事務局長 田中明子)  
印刷 北海道共同印刷所